

# 小学校 総合的な学習の時間

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標 (第1の目標)

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

第1の目標は、大きく分けて二つの要素で構成されている。一つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、総合的な学習の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、総合的な学習の時間を通して育成することを目指す資質・能力であり、他教科等と同様に、(1)では総合的な学習の時間において育成を目指す「知識及び技能」を、(2)では「思考力、判断力、表現力等」を、(3)では「学びに向かう力、人間性等」を示している。

### <総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力>

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識 (及び概念)</li> <li>○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</li> <li>○探究的な学習のよさの理解</li> </ul> <p>知識は、教科書や資料集に整然と整理されているものを取り込んで獲得するものではなく、探究の過程を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結び付けながら、構造化され、身に付けていくものです。こうした過程を経ることにより、獲得された知識は、実社会・実生活における様々な課題の解決に活用可能な生きて働く知識、すなわち概念が形成されるのです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究的な学習を通して身に付ける課題を見だし解決する力</li> <li>・課題設定</li> <li>・情報収集</li> <li>・整理・分析</li> <li>・まとめ・表現 など</li> </ul> <p>身に付けた「知識及び技能」の中から、当面する課題の解決に必要なものを選択し、状況に応じて適用したり、複数の「知識及び技能」を組み合わせたりして、適切に活用できるようになっていくことと考えることができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる</li> <li>○協働的な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる など</li> </ul> <p>よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい態度として「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を活用・発揮しようとするものと考えることができます。</p>
教育課程全体における「主体的・対話的で深い学び」に向けた学習活動を支える		



これら育成を目指す資質・能力の三つの柱は、個別に育成されるものではなく、探究的な学習において、よりよい課題の解決に取り組む中で、相互に関わり合いながら高められていくものとして捉えておく必要があります。

### (2) 実施上のポイント

#### ①改訂のポイント

- 探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。(改訂の基本的な考え方)
- 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することを示した。(目標の改善)
- 各学校は、総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定するよう改善。(学習内容、学習指導の改善・充実)
- 教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したり

する学習活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動が行われるように示した。(学習内容、学習指導の改善・充実)

- プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける学習活動を行う場合には、探究的な学習の過程に適切に位置付くようにすることを示した。(学習内容、学習指導の改善・充実)

## ②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び ※キーワード：「課題設定」と「振り返り」
対話的な学び	他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び ※例えば、「考えるための技法」を意識的に使っていくことが、対話的な学びを確かに実現していくものと期待できる。 「考えるための技法」→考える際に必要になる情報の処理方法を、例えば「比較する」、「分類する」、「関連付ける」のように具体化し、技法として整理したもの
「深い学び」の視点に関して、総合的な学習の時間の学びの深まりの鍵となるもの→「見方・考え方」	

- ◎総合的な学習の時間における探究的な学習の過程が充実することにより、各教科で育成された資質・能力は繰り返し活用・発揮される。そのことによって、生きて働く知識及び技能として習得され、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等が育成され、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養につながるのである。

総合的な学習の時間の特徴に応じた物事を捉える視点や考え方である「探究的な見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが大切です。



### <総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」の視点>

#### ○学習過程を探究的にすること

総合的な学習の時間における学習では、問題解決的な活動が右図のように発展的に繰り返されていく。これが探究的な学習であり、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことである。

**課題の設定**：体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

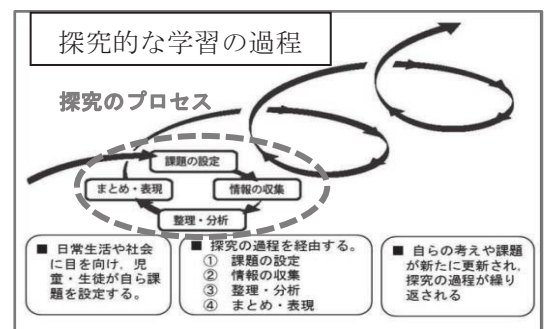
**情報の収集**：必要な情報を取り出したり収集したりする

**整理・分析**：収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

**まとめ・表現**：気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

#### ○他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

- ・多様な情報を活用して協働的に学ぶ
- ・異なる視点から考え協働的に学ぶ
- ・力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ
- ・主体的かつ協働的に学ぶ

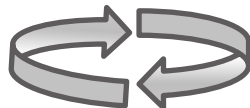


## ③見方・考え方について

### <探究的な見方・考え方>

- 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること  
(総合的な学習の時間の特徴に応じた見方・考え方)

各教科等における見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的に活用



総合的な学習の時間において各教科の見方・考え方を扱うことで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の「深い学び」を実現



総合的な学習の時間の中で、児童が探究的な見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながります。そして、学校教育のみならず、大人になった後に、実社会・実生活の中でも重要な役割を果たしていくのです。

○総合的な学習の時間において、各教科等における見方・考え方を総合的に活用するということは、社会で生きて働く資質・能力を育成する上で、教科等の学習と教科等横断的な学習を往還することが重要であることを意味している。系統的に構造化された内容を、それぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせて学ぶ教科等の学習と、総合的な学習の時間において、各教科等で育成された見方・考え方を、実社会・実生活における問題において総合的に活用する教科等横断的な学習の両方が重要であるということの意味している。このような教科等の学習と教科等横断的な学習の両方が示されていることは我が国の教育課程の大きな特色であり、今回の改訂では改めてその趣旨を明らかにしている。

### ⑤各学校において定める目標及び内容

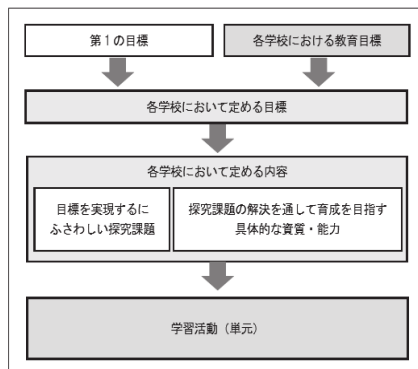
#### ○目標

- ・各学校においては、第1の(国の)目標を踏まえつつ、各目標の要素のいずれかを具体化したり、重点化したり、別の要素を付け加えたりして目標を設定する。
- ・各学校において定める目標は、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

#### ○内容

各学校において定める内容においては、「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つを定める。目標の実現に向けて、児童が「何について学ぶか」を表したものが探究課題であり、各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力という関係になる。

<目標と内容と学習活動の関係>



#### <各学校で設定する探究課題の例>

三つの課題	探究課題の例
横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題)	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観 (国際理解)
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化 (情報)
	身近な自然環境とそこに起きている環境問題 (環境)
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 (福祉)
	毎日の健康な生活とストレスのある社会 (健康)
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題 (資源エネルギー)
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々 (安全)
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者 (食)
	科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化 (科学技術)
	など
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 (町づくり)
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 (伝統文化)
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 (地域経済)
	防災のための安全な町づくりとその取組 (防災)
	など
児童の興味・関心に基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来 (キャリア)
	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展 (ものづくり)
	生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ (生命)
	など

### (3) 評価について

#### ①評価の観点及びその趣旨

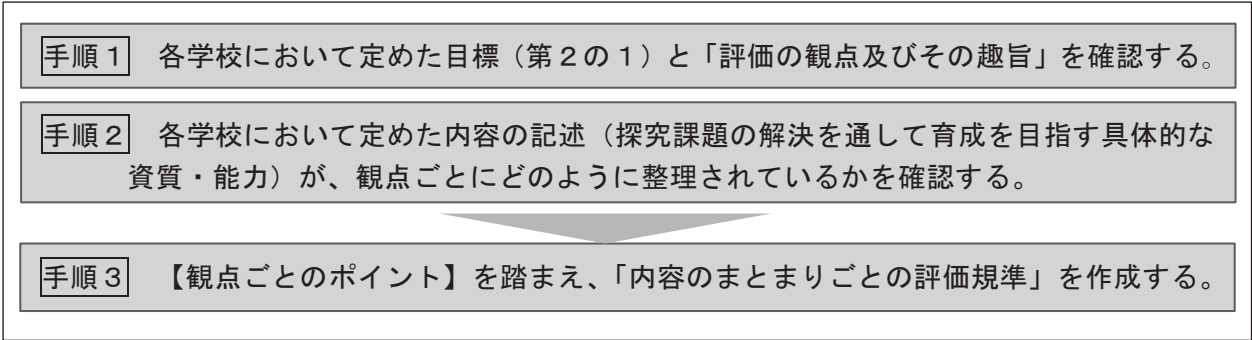
**手順1** 第1の目標のうち(1)、(2)、(3)の文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」、「～している」、「～しようとしている」として設定することが考えられます。



観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

【小学校 総合的な学習の時間】

② 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順



**手順2** 各学校において定めた内容の記述（略）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

＜A小学校4学年の内容（例）＞

内容のまとめり（各学校において定める内容）			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域の自然環境と環境問題に向き合う人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について理解する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">概念的な知識</span></li> <li>・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">概念的な知識</span></li> <li>・地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があることが分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">概念的な知識</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境について、地域への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題の設定</span></li> <li>・手段を選択して情報を収集することができる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報の収集</span></li> <li>・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">整理・分析</span></li> <li>・相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ・表現</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。</li> <li>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。</li> <li>・地域との関わりの中で自分で見つけようとする。</li> </ul>



「活動あって学びなし」にならないよう、各学校で資質・能力を明確に設定します。

**手順3** 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

内容のまとめりごとの評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然環境と環境問題に向き合う人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について<u>理解している</u>。</li> <li>・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを<u>理解している</u>。</li> <li>・地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があることが<u>分かっている</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境について、地域への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の<u>見通しをもっている</u>。</li> <li>・手段を選択して情報を<u>収集している</u>。</li> <li>・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し<u>考えている</u>。</li> <li>・相手や目的に応じて、分かりやすく<u>表現している</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで<u>取り組もうとしている</u>。</li> <li>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して<u>学び合おうとしている</u>。</li> <li>・地域との関わりの中で自分で見つけよう<u>としている</u>。</li> </ul>

## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

### (1) 単元名 川的美しさを取り戻そう (第4学年)

### (2) 単元の目標

住吉川の環境について調べたり、その保全に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して、環境保全に関する具体的な取組について考え、環境を守る活動が続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、住吉川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

### (3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 住吉川の環境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動をしている人や組織の存在、思いに気付いている。 ② 住吉川に住む生物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。 ③ 住吉川の環境と自分たちの生活には関連があることへの理解は、川とそこに生息する生き物との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 住吉川の上流と中・下流の様子の比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。 ② 住吉川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。 ③ 住吉川の環境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。 ④ 川の環境保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。	① 住吉川とそこに住む生物の関係を明らかにするという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。 ② 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③ 自分と川や地域の人々等とのつながりに気付き、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。

### (4) 指導と評価の計画 (全70時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 住吉川の様子をさぐる。(15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の中流、下流、上流のそれぞれを探検し、それぞれの特徴をまとめる。</li> <li>ホテルがある上流の様子と、油や泡、ゴミなどがある中・下流の様子を比較する。</li> </ul>			①	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記録シート</li> </ul>
2 住吉川的美しさを取り戻すための活動を考えて実行しよう。(35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較から生じたギャップから問題状況を捉え、「川的美しさを取り戻そう」という単元を通した課題を設定する。<b>【10の視点】② 体験的な学習の充実</b></li> <li>川的美しさを取り戻すための活動を進めるために、川の調査や周辺住民へのインタビューから必要な情報を集める。</li> <li>川の間境を守る取組を進めている「ホテルを増やす会」の人の話を聞く。</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>課題カード</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査したことや聞いたこと等を整理して、川的美しさを取り戻すための具体的な活動を考える。</li> <li>川的美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。</li> </ul>		③		<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>表現物</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>川的美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。</li> </ul>			②	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>取組カード</li> </ul>
3 地域とともに活動を行い、これからの自分たちの行動について考えよう。(20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な人や組織が住吉川の環境保全に関わっていることを振り返る。</li> <li>地域の人に川への関心を高めてもらうための活動を企画する。</li> </ul>	①			<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>振り返りカード</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でできる川を汚さない方法を伝える、川掃除会を開催する、「ホテルを増やす会」の活動に参加するなど、実行に向けた準備を進める。</li> </ul>		④		<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>ワークシート</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の自分たちと地域との関わりや環境との関わりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。</li> </ul>	③			<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>作文カード</li> </ul>

**【10の視点】**  
⑧ 学習を振り返る活動の設定

自分たちとの関わりの中で振り返らせ、次の学習の課題をつかみ、探究的の過程につなげることができます。

(5) 観点別学習状況の評価の進め方（具体的事例）

①評価の場面

本評価場面は、地域の住吉川を探検する体験活動を通して、子供たちが川の問題状況を把握し、そこでの気付きを出し合い共有する中で、自分たちが解決を目指す課題をつくり出すことをねらった場面である。

②学習における児童の姿と評価の結果

【評価規準「思考・判断・表現①」】

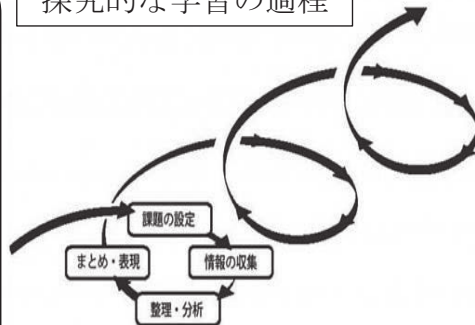
住吉川の上流と中・下流の様子と比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。

< A児の課題カードの記述 >

住吉川のそばを歩いていると、油がういていたり、まわりにゴミが落ちていたりして、よごれていることが分かりました。別の日に、家の人や友達、先生といっしょに川の上流に行ってみました。すると、たくさんのホタルが飛んでいました。そこにはホタルのほかにもいろいろな生き物がいました。川の上の方にだけホタルがいたので、ホタルはどんなどころに住んでいるのだらうと思いました。

住吉川の探検を通して川が汚れている状況を捉えている。さらに、川の上流ではホタルが見られたことから、生き物の存在をもとに川の状態の違いを捉えている。川やホタルの様子について興味をもち始めた段階ではあるが、「河川の状況と生物との関わりについて課題をつくりだした」段階には至っていない。

探究的な学習の過程



A児同様、多くの子供たちが、中流や下流では見られないホタルが上流でのみ見られることに気付いている状況があったことから、ホタルの生態について調べることにした。

児童の実態に応じて学習活動を設定

川の上流と中・下流の様子の違いと、ホタルの生態との関わりについて調べたり、川をきれいにしている活動をしている大人を知ったりすることを通して、「川の美しさを取り戻そう」という単元を通した課題を設定している。

< ホタルの生態について調べた A児の振り返り（課題カード） >

ぼくたちはホタルが住む場所や食べ物などについて調べました。ホタルの幼虫はカワニナを食べます。このカワニナがきれいな川の底に住んでいることが分かりました。たんけんした川の近くに、川をきれいにしている活動をしている人たちがいることがわかる看板がありました。また、「ホタルを増やす会」があることも分かりました。ぼくも、ホタルをもっと増やすことができるように、よごれている今の住吉川を自分たちの力できれいにするためにできることをやってみたい、と思いました。そのためには、ホタルが住んでいる場所とそうでない場所の違いをもっとくわしく調べなくてはなりません。ぼくは、えさになるカワニナが住んでいる場所の水温や川底の様子について調べると、ホタルとの関係が分かると思うので、調べようと思います。

体験活動での気付きと、ホタルについて調べたことやホタルを増やす活動に取り組む大人存在等を知ったことを関連付け、「ホタルをもっと増やすことができるように、汚れている川を自分たちの力できれいにしたい」という思いをもった。このような思いの実現に向け、振り返りには、ホタルのえさとなるカワニナの生息状況を調べることで、河川と生物との関係を明らかにしようと見通している。こうした姿から評価する規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

評価規準に示す資質・能力が十分に育成されるように、振り返りカードや行動観察等で児童の学びを見取り、児童の実態に応じて、体験活動や地域の人との出会いの場を設定する等、学習活動を工夫しましょう。探究的な学習の過程が充実し、総合的な学習の時間での目標である、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力が育成されます。

# 中学校 総合的な学習の時間

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標 (第1の目標)

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

第1の目標は、大きく分けて二つの要素で構成されている。一つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、総合的な学習の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、(1)、(2)、(3)として示している、総合的な学習の時間を通して育成することを目指す資質・能力である。育成することを目指す資質・能力は、他教科と同様に、(1)では総合的な学習の時間において育成を目指す「知識及び技能」を、(2)では「思考力、判断力、表現力等」を、(3)では「学びに向かう力、人間性等」を示している。

#### <総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力>

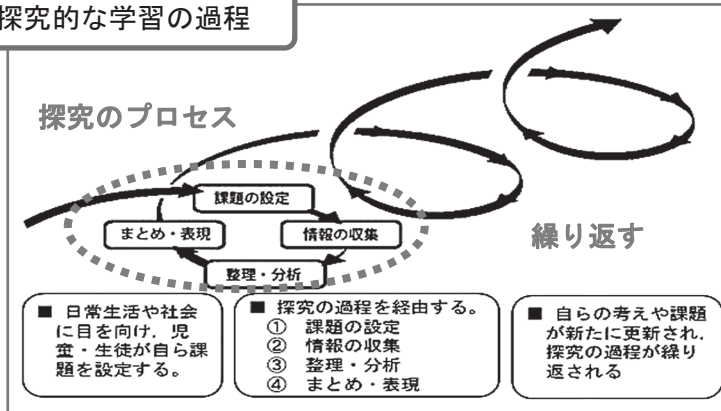
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念)や技能</li> <li>○探究的な学習のよさの理解</li> </ul> <p>知識は、教科書や資料集に整然と整理されているものを取り込んで獲得するものではなく、探究の過程を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結び付けながら、構造化され、身に付けていくものです。こうした過程を経ることにより、獲得された知識は、実社会・実生活における様々な課題の解決に活用可能な生きて働く知識、すなわち概念が形成されるのです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究的な学習を通して身に付ける、課題を見いだし解決する力</li> <li>・課題設定</li> <li>・情報収集</li> <li>・整理・分析</li> <li>・まとめ・表現 など</li> </ul> <p>身に付けた「知識及び技能」の中から、当面する課題の解決に必要なものを選択し、状況に応じて適用したり、複数の「知識及び技能」を組み合わせたりして、適切に活用できるようになっていくことと考えることができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる</li> <li>○協働的な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる など</li> </ul> <p>よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい態度として「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を活用・発揮しようとすることと考えることができます。</p>

### (2) 実施上のポイント

#### ①改訂のポイント

○探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。

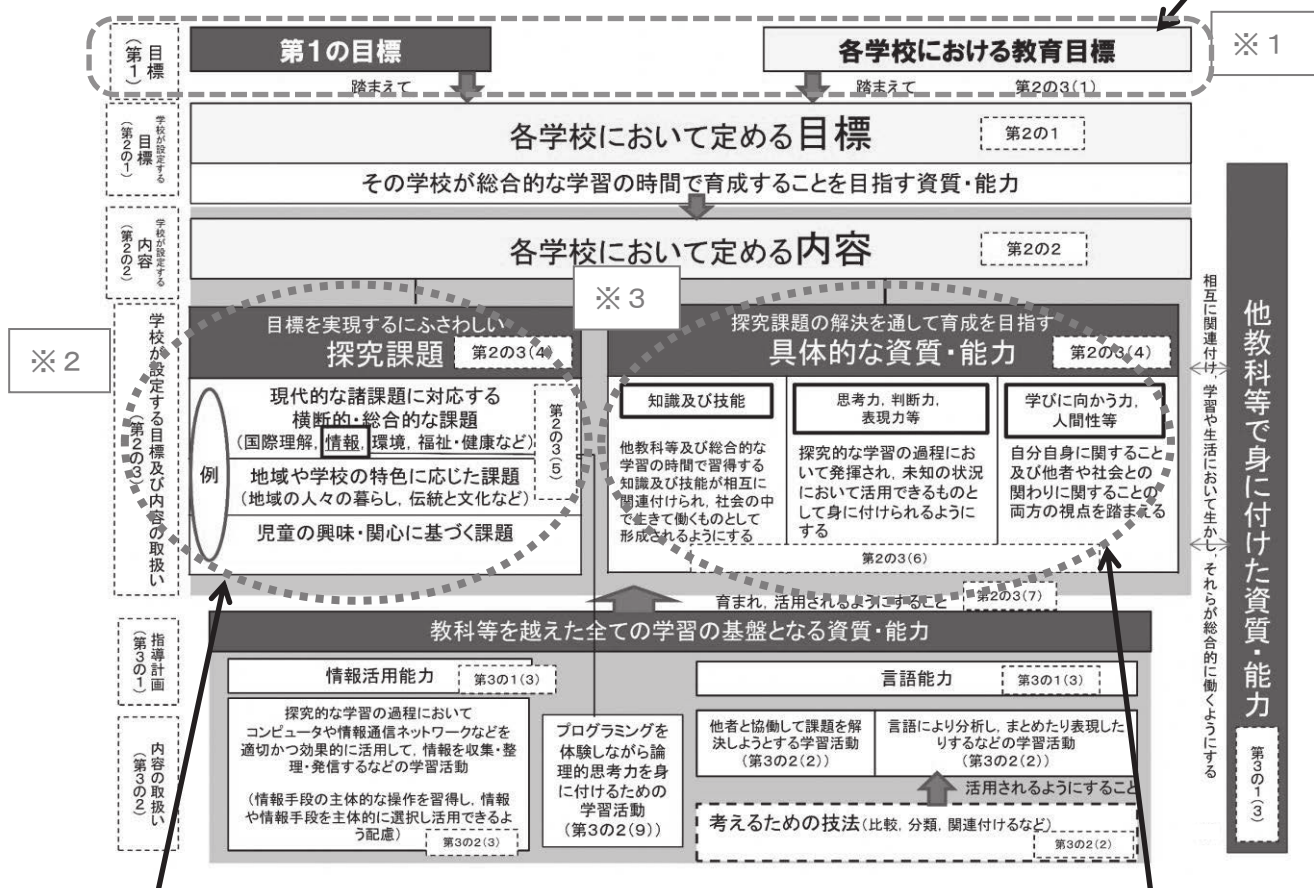
#### 探究的な学習の過程



- 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定する（※1）ことを示した。
- 各学校は総合的な学習の時間の「目標を実現するにふさわしい探究課題」を設定（※2）するとともに、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定（※3）するよう改善した。
- 全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動が行われるように示した。

※1 学校の教育目標と直接つながっているのが総合的な学習の時間の目標の特徴です。各学校でも目標を作成する際には、第1の目標の趣旨を盛り込み、各地域や学校・生徒の実態に応じて、各目標の要素のいずれかを具体化や重点化したり、別の要素を付け加えたりすることが考えられます。

平成30年度から実施 総合的な学習の時間の構造イメージ



※2 「目標を実現するにふさわしい探究課題」とは、「何を学ぶか」ということです。探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したもので、これまで「学習対象」とされてきたものです。「現代的な諸課題」、「地域や学校の特色に応じた課題」、「生徒の興味・関心に基づく課題」、「職業や自己の将来に関する課題」の4つの例が示されています。

※3 「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」とは「どのようなことができるようになるか」ということです。3つの柱で整理されます。「知識及び技能」では、どのような概念を育むか明らかにすることが大切です。「思考力、判断力、表現力等」はこれまで「学習方法に関すること」とされていた部分です。「学びに向かう力、人間性等」は自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえることとして示されています。



＜各学校で設定する探究課題の例＞

四つの課題	探究課題の例
横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題)	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観 (国際理解)
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化 (情報)
	地域の自然環境とそこに起きている環境問題 (環境)
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 (福祉)
	毎日の健康な生活とストレスのある社会 (健康)
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題 (資源エネルギー)
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々 (安全)
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者 (食)
	科学技術の進歩と社会生活の変化 (科学技術)
	など
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 (町づくり)
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 (伝統文化)
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 (地域経済)
	防災のための安全な町づくりとその取組 (防災)
	など
生徒の興味・関心に基づく課題	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展 (ものづくり)
	生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ (生命)
	など
職業や自己の将来に関する課題	職業の選択と社会への貢献 (職業)
	働くことの意味や働く人の夢や願い (勤労)
	など

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇主体的な学び

学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び

※振り返りの例：文章やレポート、口頭での報告

◇対話的な学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び

※多様な対話の例：

- 他者への説明による情報としての知識や技能の構造化
- 他者からの多様な情報収集
- 他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化
- 自己の中で対話
- 先人の考えなどと文献で対話
- 離れた場所を ICT 機器などでつないで行う対話

年間計画や単元計画を立てる際に、生徒や学校、地域の実態に応じて目標や内容を決定し、生徒が見通しをもったり、振り返りを行ったりする場面や、対話によって自分の考えを深めたりする場面をどのように設定するかが大切です。協働的な学習を充実させたり、思考を深めたりするために、「考えるための技法」や思考ツールを活用することも考えられます。



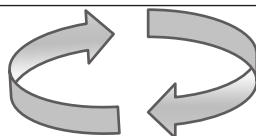
◇深い学び 探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる

③見方・考え方について

＜探究的な見方・考え方＞

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること

各教科等における見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的・統一的に活用



総合的な学習の時間において各教科の見方・考え方を活用することで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の「深い学び」を実現



(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

**手順1** 第1の目標のうち(1)、(2)、(3)の文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」、「～している」、「～しようとしている」として設定することが考えられます。



観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

② 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

**手順1** 各学校において定めた目標（第2の1）と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。

**手順2** 各学校において定めた内容の記述（探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

**手順3** 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

**手順2** 各学校において定めた内容の記述（略）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

A 小学校4学年の内容（例）※中学校についても考え方は同じ。

内容のまとめり（各学校において定める内容）			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域の自然環境と環境問題に関心をもつ人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について理解する。<small>概念的な知識</small></li> <li>生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。<small>概念的な知識</small></li> <li>地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があることが分かる。<small>概念的な知識</small></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境について、地域への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。<small>課題の設定</small></li> <li>手段を選択して情報を収集することができる。<small>情報の収集</small></li> <li>課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。<small>整理・分析</small></li> <li>相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。<small>まとめ・表現</small></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。</li> <li>自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。</li> <li>地域との関わりの中で自分のできることを見つけようとする。</li> </ul>



「活動あって学びなし」にならないよう、各学校で資質・能力を明確に設定します。

**手順3** 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

内容のまとめりごとの評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然環境と環境問題に関心をもつ人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について<u>理解している</u>。</li> <li>生物はその周辺の環境と関わって生きていることを<u>理解している</u>。</li> <li>地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があることが<u>分かっている</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境について、地域への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の<u>見通しをもっている</u>。</li> <li>手段を選択して情報を<u>収集している</u>。</li> <li>課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し<u>考えている</u>。</li> <li>相手や目的に応じて、分かりやすく<u>表現している</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうと<u>している</u>。</li> <li>自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうと<u>している</u>。</li> <li>地域との関わりの中で自分のできることを見つけようとして<u>いる</u>。</li> </ul>